



紫陽花の花が梅雨入りを待ちわびているように咲き始めました。おうち時間が多く、いつの間にか季節が移り変わっていたという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。緊急事態宣言中も、山は芽吹き緑に覆われ、海は海藻が生い茂り、稚魚であふれています。今回は森や海のいのちを育むものについて紹介します。

「海は森の恋人」

1. 森は海の恋人

「森は海の恋人」という言葉をご存知の方も多いかと思います。牡蠣やコンブなどを養殖している沿岸の漁場には、森の恵みはなくてはならないものです。大地が作り出す栄養塩（窒素、リン酸など）は、植物プランクトンや海藻を育て、そして藻場は稚魚たちのゆりかごとなります。

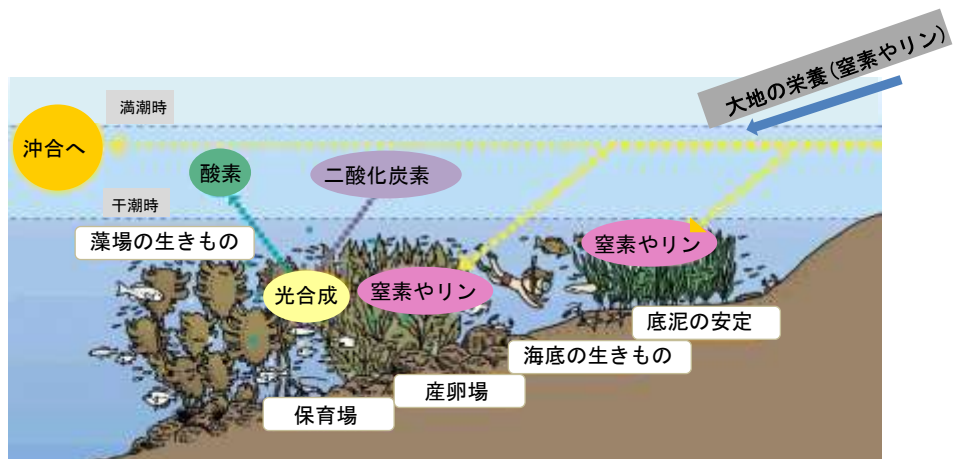


図1. 藻場による窒素とリンの吸収（藻場の役割）

森林が自然豊かであれば、大地の栄養を川が運んでくれます。そのことを漁師さんは体験的に知っていました。漁業・水産資源にとって重要な森林を魚つき林と言い、江戸時代には伐採が禁止されていました。現在も「魚つき保安林」として森林法で管理されています。近年、魚つき保安林以外でも漁師さんによる植林や森林の保全活動も盛んに行われています。その活動のひとつが、宮城県から始まった「森は海の恋人」運動です。海には森はなくてはならないとの気持ちが込められています。

2. みずのこのたび

私が小学校に入学する前によく読んでいた絵本が、「みずのこのたび」です。ポロポロでも手放せずに今も手元にあります。森の大地で生まれた「みずのこ」たちは、上流から旅を始めます。そして、生活用水などと一緒に川の流れに乗って、海にたどり着きます。そして、空に旅立ち(蒸発)、雲となり山や平野など陸地に雨となって帰っていくという水の循環についての物語です。それでは、森で作られた栄養は、一方的に川によって海に届けられるだけなのでしょうか。



写真1. 絵本みずのこのたび

3. 「サケとクマと森」

サケやアユなどのように川で生まれて、海で育ち、再び川を遡る魚を「遡可回遊魚」といいます。大海原を回遊し成長したサケは、生まれたふるさとを目指します。そして、サケは繁殖・産卵後、その一生を終えます。一生を終えたサケは川のなかで水棲昆虫や微生物に分解され、淡水の生きものを育みながら、栄養分として海に流れていきますが、実はそれだけではありません。ヒグマとサケの関わりから海からの森への贈り物について紹介します。



写真 2. 知床のサケを狙うヒグマ

ヒグマというと何を思い出しますか。サケを口にくわえたヒグマをイメージされた方もいるかもしれませんが、ヒグマにとってサケは、冬ごもり前の重要な栄養源のひとつですが、世界中のヒグマがサケを利用しているわけではありません。サケ類が遡上する地域のヒグマは、サケ類を摂取できない地域のヒグマより体のサイズが大きく、たくさんの子を産むことが知られています。サケは川などの増水などにより河原に打ち上げられたりします。北海道では、

打ち上げられたサケを「ホッチャレ」といいます。ヒグマは、川で捕獲したサケやホッチャレを陸地に引き上げて食べます。その食べ残りなどをキツネなどの哺乳類や昆虫が捕食し、更に菌類や微生物などが大地の養分に分解していきます。また、サケを食べたヒグマは、フンの排出等によっても森林に海の栄養をさらに引き上げます。例えば、河川から 500m 離れた樹木でも半径 10m 以内にホッチャレを食べる動物の痕跡があると樹木に海由来の栄養(窒素)が含まれているという研究もあります。そして、サケが遡上する流域では樹木の生長もよいそうです。このようにサケが川の流域の生きものたちを養い、そして森を育てているのです。さらに豊かな生態系によって生産された栄養が再び川によって海に運ばれているのです。本州にはヒグマはいませんが、他の哺乳類や鳥類等によって海の栄養が森にもたらされていることでしょう。このように森にとっても「海は恋人」なのです。

4. 「サケの放流」

日本各地、開発や汚水などで川からサケの姿が消えた地域は多くあります。そして、ふるさとの川と綺麗な川を取り戻す活動としてサケの放流が日本各地で盛んに行われています。海と大地の自然館のある岩美町でも旧岩美鉱山の鉱害の影響で一旦はサケが減りました。現在は、鉱害対策が功を奏し、生きものも棲める川となりました。毎年、地域ぐるみでサケの稚魚の放流を行なっています。当館でもサケの孵化、仔魚・稚魚の飼育に協力しています。



写真 3. 岩美町小田川に遡上したサケ 田中泰子氏撮影・提供

放流事業は、綺麗な川を取り戻すだけでなく、森を豊かにする活動でもあります。ちなみに岩美町内でツキノワグマがサケを獲るところは観察されていません（笠木）

《主な参考資料》

猿渡敏郎『魚類環境生態学入門』2006 東海大学出版会
 外務省・環境省主催『オホーツク生態系保全・日露協力シンポジウム報告書』2009
 《出典》

図 1. https://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/tamenteki/kaisetu/moba/higata_genjou/index.html 水産庁ホームページをもとに加工

写真 2. https://www.env.go.jp/park/shiretoko/photo/1/a01/a01_004.html 環境省ホームページをもとに加工


イベント

6/14 (日) 9:30~12:00 山陰海岸ジオハイキング~長尾鼻・夏泊コース~ (5/31 から受付開始)

6/21 (日) 16:00~18:00 部分日食を観察しよう! (申し込みなし)

7/5(日)、7/23(日) 10:00~12:00 どうする! 夏休み自由研究 (6/21 から受付開始)

秋に岩美町の小田川でサケの遡上の観察会も行いますよ!



詳細は
こちら!